

令和7年度 第1回三次市地域公共交通会議 議事要旨

1. 開催概要

日 時：令和7年6月30（金）16時00分～17時00分

場 所：三次市役所本庁舎601・602会議室

出席者：

[会長] 三次市 副市長 山崎 輝雄（欠席）

[委員]

※(web)はオンライン参加

三次市地域共創部 呑谷 巧	三次市建設部 濱口 勉
備北交通株式会社 實兼 利光	有限会社君田交通 松尾 宏
三次みどりタクシー株式会社 石田 光雄	私鉄中国地方労働組合備北交通支部 長谷川 和宏
八次地区 新田 泉	川西地区 兒玉 千洋
布野町 二本木 謙	三次商工会議所 竹本 勇夫
三次広域商工会 中宗 久之	中国運輸局広島運輸支局 藤井 里佳子(web・代理)
広島県地域政策局公共交通政策課 柴田 益良(代理)	西日本旅客鉄道株式会社広島支社 山口 晃弘
広島県警三次警察署 内海 直樹	広島経済大学経済学部 加藤 博和

2. 会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) 三次市地域公共交通会議委員の交代について
 - (2) 令和6年度三次市地域公共交通会議収支決算及び監査報告について
 - (3) AI活用型オンデマンドバス事業について
- 4 協議事項
 - (1) 三次市地域公共交通会議役員について
 - (2) 令和7年度三次市地域公共交通会議事業計画及び予算（案）について
 - (3) 令和8年度地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請について
 - (4) 三次市地域公共交通計画（第2期）の策定について
- 5 その他
- 6 閉会

3. 議 事

1. 開 会

2. 会長あいさつ

会長欠席のため、挨拶はなし。

3. 報告事項

<事務局より、報告事項（1）「三次市地域公共交通会議委員の交代について」を説明>

<事務局より、報告事項（2）「令和6年度三次市地域公共交通会議収支決算及び監査報告について」を説明>

<事務局より、報告事項（3）「AI活用型オンデマンドバス事業について」を説明>

(事務局)

ただいまの説明について、ご質問等あればお願いします。

(加藤委員)

AI活用型オンデマンドバス事業について質問する。乗降ポイントは、どういったところにどれぐらい設置される予定なのか。くるるん等の車両が入れない狭隘な道も運行するということがあったが、設置の基準があれば教えて欲しい。

運行は交通事業者に委託すると資料に記載されているが、どのように事業者を選定されるのか。

車両は、ワゴンタイプと考えるが、くるるんは黄色い車体で、愛称も公募し、選定委員会を設けて決めた。今回はどうするのかを教えて欲しい。

オンデマンドバス導入目的としては、待ち時間の長さや停留所まで遠いといった課題の解決と思うが、AI活用型オンデマンドバスを導入される経緯を教えて欲しい。また、事業費はどのくらいを想定されており、くるるんの経費と比べてどうなのか。

また、くるるんの導入時は、それ以前の三次ウェブ号を改善するという過程の中で、沿線の住民自治組織や関係者、事業者で協議を行った。今回も導入にあたって、地域や目的先との連携を図り、トータルとしてまちづくりの視点を入れるようにお願いしたい。

(事務局)

まず、運行事業者の選定については、一般旅客運送事業者にお願いする予定である。

乗降ポイント設置の考え方について、くるるんや路線バスのバス停、目的地として病院、金融機関等も含めた公共施設等に設置する。さらに、どの地点からもおおむね300m圏内にポイントがあるように、今のバス停や目的地から円を描いて、そこから外れる地域にポイントを落とす考え方である。今段階で、120程度のポイント設置を検討している。

車両イメージについて、今までは「くるるん」という愛称で運行しているが、今回「のるーと」という、全国各地で運行しているサービスの導入を検討しており、市街地での運行も「のるーと」を使った

名前となる予定である。

AI 活用型オンデマンドバスについては、ネクスト・モビリティ株式会社と協定を結んでおり、そちらとこの事業を進めていく予定である。

住民自治組織や地域との連携については、今後説明会等で、地元の皆様のご意見を伺いながら進めていくよう予定している。

事業費について、現行のくるるんは年間 1,200 万円の補助金を出している。オンデマンドの事業費は、今年度 3,510 万円を市の予算として計上しているが、これは車両購入費やシステム導入等含めたものである。1 年間のランニングコストとしては 1,600 万円で、これに運賃収入が入ることで、最終的にはくるるんよりも経費を抑えて運行できると考えている。

(石田委員)

先ほどの説明の中で 4 月 18 日に協定締結となっているが、運行事業者としては具体的にどういった内容かなど決まっていないと認識しており、協定締結まで進んでいない。

運行業者について、備北交通とみどりタクシー、アサヒタクシー、芸備タクシーの中から運転手を選んで 3 社でやるということだが、今の話では一般乗用の旅客事業者が運行するという説明であった。私共としてもタクシー会社だけで賄えるかどうか不安であり、これで決定とされても困るので確認して欲しい。

(事務局)

4 月 18 日の協定は AI オンデマンドの技術も含めて、先進的な知恵を借りながら市でシステムを構築するというので、ネクスト・モビリティと協定したというものである。

先ほどの運行については、今のところ市では、全体的なマネジメントを備北交通にお願いしたいと考えている。その中で、みどりタクシー、アサヒタクシー、芸備タクシーに運転手をお願いしたいと内部で検討している。

(石田委員)

備北交通からも運転手を出されると聞いている。

(柴田委員)

今年の 12 月から運行されるということであるが、定時定路線の便は、実証期間中は無くなるという理解でよろしいか。

(事務局)

本年度中はこれまでどおり、くるるんを運行する。来年度以降は AI オンデマンドへの一本化を予定している。

(柴田委員)

県内で色々な AI オンデマンドが実施され、高齢者は定時定路線が分かりやすく便利だという方も

一定数いらっしゃる。しっかり実証期間中に調査して来年度に繋げていただきたい。

4. 協議事項

<事務局より、協議事項（1）「三次市地域公共交通会議役員について」を説明>

（事務局）

ご意見ご質問等はあるか。無いようであれば、協議事項（1）についてご承認いただくということでよろしいか。

（一同）

意義無し。

<事務局より、協議事項（2）「令和7年度三次市地域公共交通会議事業計画及び予算（案）について」を説明>

（加藤委員）

事業費の3つ目にバスの乗り方教室に係る報償費があり、公共交通利用促進策の推進の一環ということであるが、令和6年度の予算では執行がなかったため実施されなかったと思われる。今年度について、具体的に実施する学校や時期等、何か決まっていれば教えて欲しい。

（事務局）

バスの乗り方教室は、ご指摘の通り令和6年度は執行がなく、ここ2年程度実施できていない。ただし、備北交通ではモビリティデイズに変わったタイミングでもあり、また、AI オンデマンドバスも今年度実証運行ということで、体験会などの形で、より多く知ってもらえるよう実際に乗ってもらえる場を作っていきたい。

（實兼委員）

公共交通会議の事業計画のところで、アンダーラインを引いているものが今年の重点事項ということで、予算も振られているであろうが、先ほど説明のあったAI デマンドは、この交通会議とは関係ないのか。交通会議での扱いを確認したい。

（事務局）

AI オンデマンドバスについては市の事業であるが、交通会議の中での位置付けとしては、12の事業のうちの下から2番目のデジタル技術を活用した移動利便性向上策の研究となる。AI オンデマンドバスを運行させていく位置付けとなっている。

（實兼委員）

色々な情報については、この交通会議でも情報を提供していただけるという理解でよろしいか。

(事務局)

その通りである。

(副会長)

その他無いようであれば協議事項（２）についてご承認いただけるか。

(一同)

意義無し。

(事務局)

承認とする。

<事務局より、協議事項（３）「令和８年度地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請について」を説明>

(副会長)

ご意見やご質問が無いようであれば承認いただけるか。

(一同)

意義無し。

(事務局)

承認とする。

<事務局より、協議事項（４）「三次市地域公共交通計画（第２期）の策定について」を説明>

(加藤委員)

アンケート調査票について、各交通機関の利用状況やスマホ・キャッシュレス決済など多岐に渡る質問があるため、どうしても字が小さくなると思うが、できるだけ回答しやすいように工夫していただきたい。

15歳以上の市民が対象ということで、中学生、高校生、大学生等若い世代も入っている。こうした方は公共交通ユーザーの大きな部分でもあるが、回答件数は少なくなるのかもしれない。この世代の声を多く集められないか。学校に協力を仰いでアンケートや意見交換会等を行うと、実際の声なども収集できるかと思う。高齢者も同様である。色々な市民各層で声を集めることは大変であろうが、お願いしたい。

計画策定については、今芸備線の利用促進等も、安芸高田市や広島市と連携して行われたりしている

ことも念頭に、全体としての公共交通の枠組を構築するような計画づくりをお願いしたい。

(事務局)

個別に学校の方へヒアリングに行く等、そういった事も含めながらより多い若年層の声も聞けるように取り組んでいきたい。

(山口委員)

アンケート調査は分析の仕方が一番大切である。単純集計して「この項目は何パーセントこうなりました」といったことだけではなく、住民の移動のニーズが見える形で、例えば JR にどのような不満を持っているのかなど、クロス集計をしっかりとすることで自ずとニーズが見えてくるのではないか。これが具体的施策に繋がっていくので、分析の仕方が肝になる。しっかり「見える化」してもらえれば、事業者としてもありがたい。

(事務局)

アンケート結果がより明確に示せるような形でクロス集計も含めてしっかり分析をして、皆さんに提示させていただきたい。

(副会長)

他にご意見ご質問はないか。無いようであれば承認ということで良いか。

(一同)

異議無し。

5. その他

6. 閉 会

以 上